

I 「学生による授業評価2006」の概要

I-1 目的

本学では、学生の授業に関する理解の状況や満足感等を把握することによって、教育内容や教授方法および学習支援システム等の改善に資することを目的とし、昨年度から自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入している。昨年度は、初回ということもあって、試行としての意味も持たせたが、第2回目の今年度は、昨年度の調査内容に回答のしやすさなどを勘案した上で若干の変更を加え、さらに大学院科目にも対象を拡大して、本格的な授業評価調査を実施した。以下、その量的分析結果と自由記述の内容とを報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その意味では、まさに字義通りの授業評価といってよい。その主な目的は、次の通りである。

- (1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) **カリキュラム全体の改善支援**……専攻または領域、プログラム（群）におけるより効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては学生評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易でない。そこには、次のようないくつかの放送大学に固有の条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるのである。まず第一に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する（つまり改訂版を収録する）ということが非常に難しいのである。第二に、放送大学の科目担当者は客員であることが多く、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。担当者が交代すると、科目自体の内容や構成が全く変わってしまうため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。第三に、放送大学は公開大学であり入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をし

ていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる学生調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送教材と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送教材と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことはいうまでもない。そして、第四に、放送大学は開学以来、教員の5年任期制を採ってきており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

I-2 構成と内容

今回の学生による授業評価調査は、大きく分けて3つの部分からなっている。第1は、当該科目の放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する26項目の評定尺度質問である。その内容は、まず放送授業に関する評価、ついで印刷教材に関する評価、通信指導・単位認定試験に関する評価、そして全体的評価と満足感である。その細目は「学習への取り組み状況」「放送授業の視聴状況」「授業の難しさ」「分量の多さ」「講師の説明の分かりやすさ、熱意」「テレビまたはラジオに適した内容」「印刷教材の難しさ」「印刷教材の分量の多さ」「印刷教材の内容の適切さ」「通信指導のコメントの適切さ」「単位認定試験の適切さ」「興味・関心・知識・能力の向上」「全体的理解しやすさ」そして「全体的満足感」といったものである。第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらった形態を採った。そして、第3は属性に関するフェースシートである。実際に使用した調査票については84、85頁を参照されたい。

I-3 方法と期間

評価の対象としたのは、平成18年度第1学期に本学で開講していた学部286科目、大学院67科目、計353科目の放送授業のうち、原則として開講2年目でかつ昨年度（平成17年度）に対象とならなかった学部34科目、大学院21科目、計55科目である（次頁表1参照）。開講2年目の科目を原則としたのは、3年目以降の科目ではすでに次期に向けての改訂作業が進められていて授業改善という目的に十分役立てることができず、また開講したばかりの1年目の科目では結果が出ても改訂までに間が空きすぎるなど、本学の科目作成の特殊事情を勘案してのことであるが、このような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が開講期間中に必ず1回、評価調査の対象とされることになる。

調査票の配票は、それら 55 科目の受講登録者を母集団とし、学部科目では各 250 名ずつ（登録者がそれ未満の科目は全数）、大学院科目では各 200 名ずつ（同）をそれぞれ無作為抽出して得られた学部 8,008 名、大学院 3,421 名、計 11,429 名に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行った。回収も郵送によった。調査期間は単位認定試験終了直後から 8 月下旬までの約 1 ヶ月間であった。有効回答数は学部 3,078 票、大学院 1,589 票、計 4,667 票であった。無記名調査ながら有効回答率は学部 38.4 %、大学院 46.4 %、全体で 40.8 %と低めであった。学部科目のみを対象とした昨年度の評価調査の 41.5 %と比較すると、わずかながら低下していることがわかる。属性別に見ると、特に男性の回答率の低下が目立った（後出表 2 参照）。回収率の低下の要因はさまざまに考えられるが、昨年と同様に科目登録者の数や調査日程の関係から単位認定試験未受験者に対しても調査票を配付していることが回収率の低さの大きな要因の一つと思われる。

表 1 評価対象科目数

学部【専攻】

生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解	計
4(39)	5(39)	10(42)	—(36)	11(81)	4(49)	34(286)

※（ ）内の数値は各専攻毎の全開設科目数。

※「産業と技術」に属する科目については平成 18 年度の調査対象の科目はなし。

大学院【プログラム（群）】

文化情報科学	環境システム科学	政策経営	教育開発	臨床心理	計
7(16)	6(13)	4(17)	2(15)	2(6)	21(67)

※（ ）内の数値は各プログラム（群）毎の全開設科目数。

I - 4 回答者の特性

回答者の属性別分布は、次頁の表 2 および表 3 に示したとおりである。母集団の分布と比較すると、学部では、年齢階層別で高齢層に、学生種別で全科履修生に、それぞれ若干偏っていることがわかる。また、大学院では、性別で男性に、年齢階層別で中高年層に、学生種別では修士全科生に、それぞれ母集団よりもウェイトが置かれていることが見て取れる。結果を見る際には、そうした点に関しても注意が必要となろう。

表2 学部回答者の属性分布（（ ）内は母集団の分布）（%）

	性別		年齢階層別							学生種別		
	男性	女性	-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	全科生	選科生	科目生
18年度回答者 (母集団)	42.9 (42.3)	51.5 (57.7)	0.6 (1.2)	11.2 (15.8)	19.5 (27.9)	20.0 (23.4)	20.0 (18.0)	18.6 (13.7)	8.2	71.4 (69.1)	18.9 (21.5)	6.7 (9.4)
17年度回答者 (母集団)	51.9 (42.0)	44.4 (58.0)	0.7 (1.2)	14.1 (17.2)	19.4 (28.2)	17.0 (22.6)	20.2 (17.4)	19.3 (13.4)	7.7	75.2 (68.4)	16.2 (21.9)	6.9 (9.7)

※回答者については、無記入があるため合計は100%にはならない。

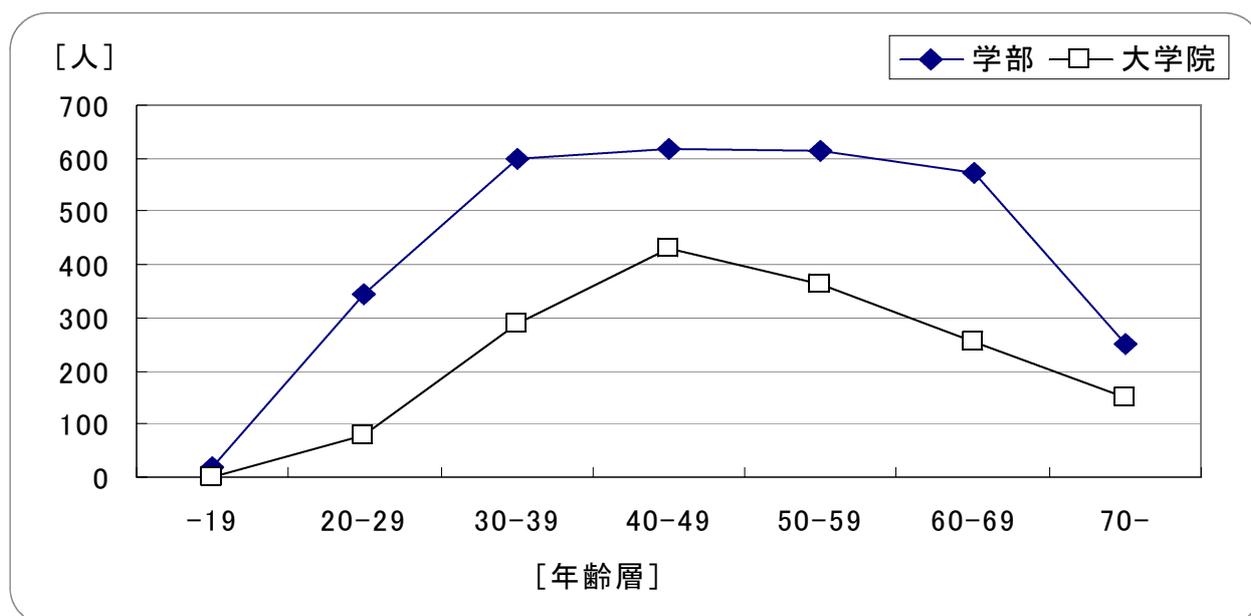
表3 大学院回答者の属性分布（（ ）内は母集団の分布）（%）

	性別		年齢階層別							学生種別		
	男性	女性	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	全科生	選科生	科目生	
18年度回答者 (母集団)	56.7 (54.3)	36.1 (45.7)	4.8 (7.0)	18.1 (22.0)	27.1 (32.4)	22.8 (24.6)	15.9 (14.0)	9.4	31.0 (19.7)	52.4 (63.4)	13.1 (16.9)	

※回答者については、無記入があるため合計は100%にはならない。

回答者の特性を把握するため、以下、回答者全体をいくつかの属性で分類し、その結果を図示しておくことにしよう。そうすることで、回答者の全体像がいつそうはつきりとしたものとなると思われるからである。

図1 年齢層別回答者数（学部・大学院）

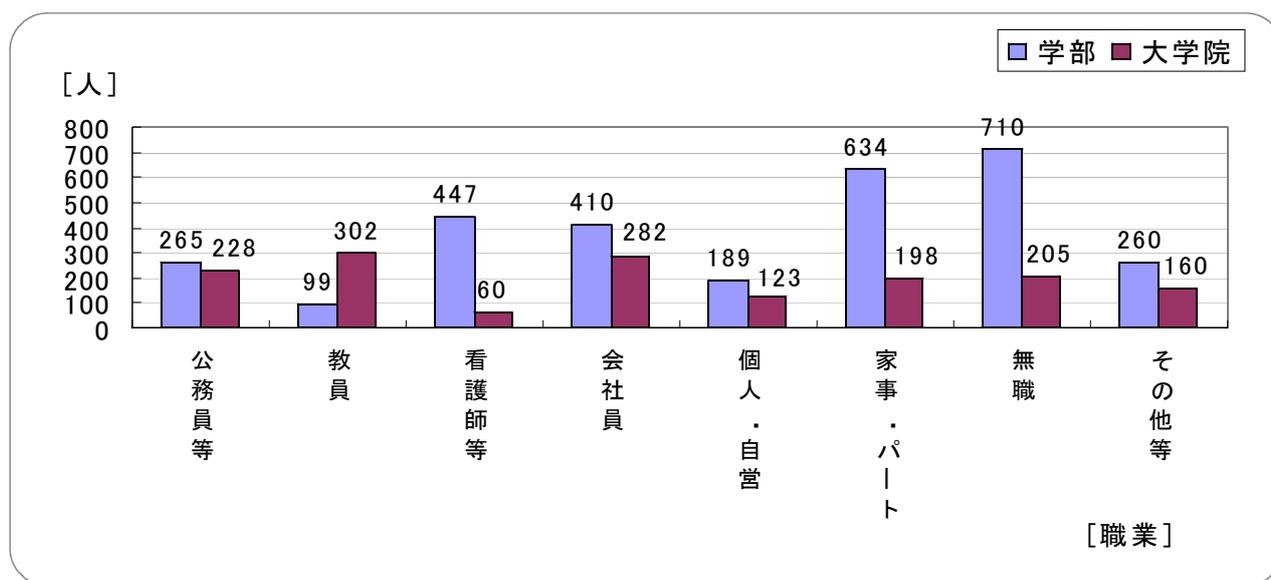


まず、年齢階層別に回答者数を見ると、学部では40代（617名）が多く、次に50代（615名）、30代（600名）が続いている。折れ線を見る限り、30代から60代はほぼ一定の回答者数を得られているといえるだろう。表2の各年齢階層の比率と併せて見ると、母集団に比べ高齢者層ほど構成比が高くなっていることも見て取れる。図には示せなかったが、男女別で見ると、30代から50代では女性の回答者数が男性を上回っているのに対し、60代ではその関係が逆転し、男性の回答者数が女性の倍以上の数を示していることから、こうした年代の回答を見る場合、年齢階層によっては女性または男性に偏った傾向が生じていることを念頭に置く必要があるといえよう。

一方、大学院では、40代（431名）が群を抜いて多く、50代（362名）と30代（287名）がそれに続いている。やはり、高度専門職業人の要請という、本学大学院のカリキュラム特性を反映したものと見ることができよう。

ついで、職業別に回答者数の傾向を見てみよう。図2のように回答者数を、フェースシートの分類に若干修正を加えた8つの職業グループ別で見ると、学部では無職（710名）が最も多いことがわかる。

図2 職業別回答者数（学部・大学院）

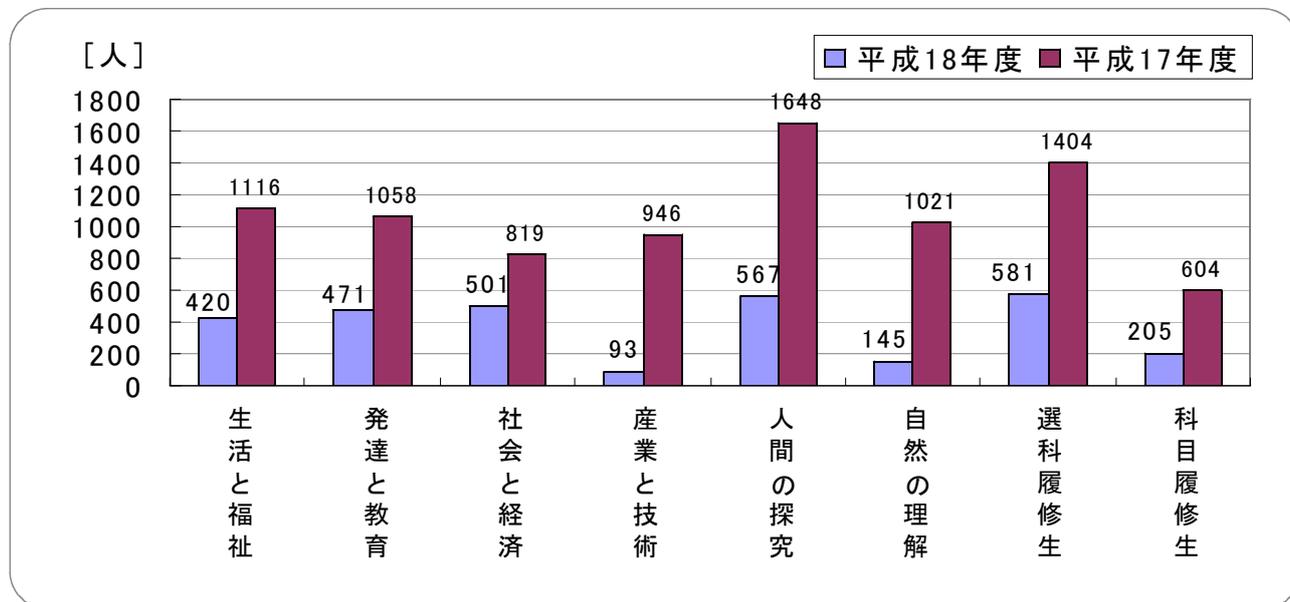


これには定年および退職後の男性の数が影響していると考えられる。結果の全体的な解釈にあたっては、この無職層、特に男性無職層の回答傾向に十分注意する必要があるだろう。それに続いて回答者数が多いのは、家事・パート（634名）、看護師等（447名）である。先に触れたように、30代から50代で男性より女性の回答者数が多かったことを考え併せると、今回の評価結果の分析にあたっては、とりわけ年齢階層別の解釈において、これらの職種の影響を無視することはできないものと考えられる。

一方、大学院では、全く様相が異なり、教員（302名）、会社員（282名）、公務員等（228名）が上位にくる。学部で最も多かった「無職」「家事・パート」の数は逆

に少なくなっている。高度専門職業人の育成を標榜した本学のカリキュラム内容が反映しているものと見ることができよう。なお、「看護師等」も少数であるが、これには資格取得に関わる特殊な事情があるものと考えられる。

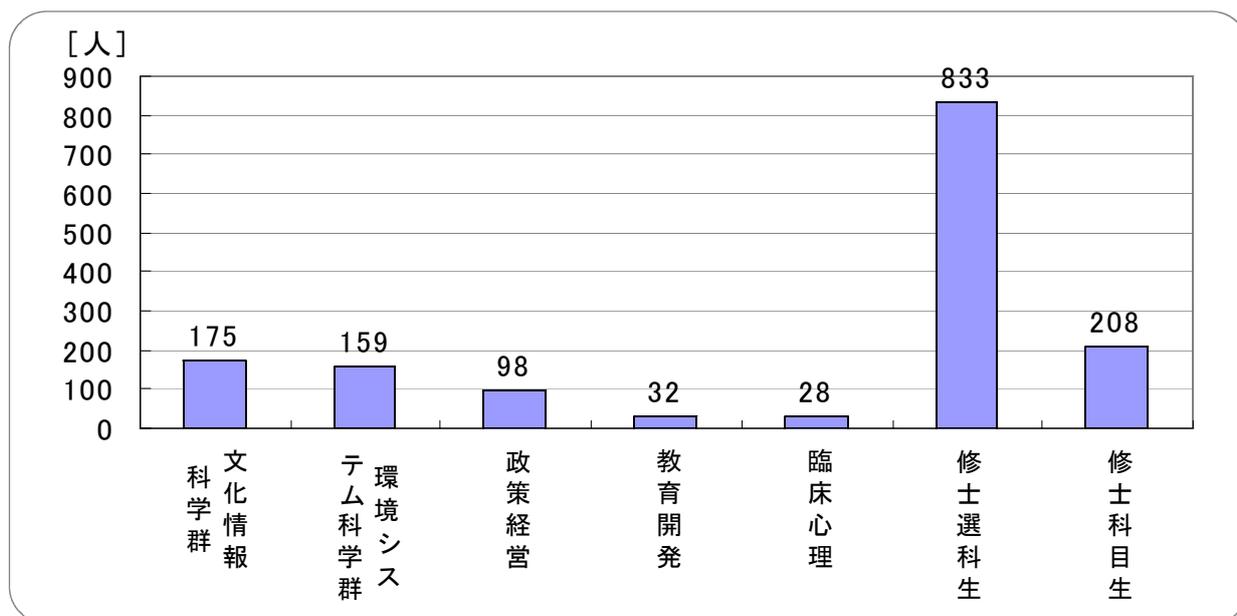
図3 学部学生の所属専攻別回答者数（平成17年度との比較）



次に、回答者の所属専攻等（全科履修生、修士全科生）および学生種ごとに回答者数を見よう（図3、図4）。まず学部では、選科履修生、科目履修生は別として全科履修生に注目する。「人間の探究」に所属する学生は、対象となる科目が昨年の試行段階より大幅に減少したため、回答者数としては大きくウェイトを減じている。また、産業と技術専攻の学生数がきわめて少ないことには、たまたま対象科目に産業と技術専攻所属の科目がなかったことが大きく影響している。

一方、図4において、大学院では母集団全体が非常に大きい修士選科生の比率が際立って高くなっている（全体の52.4%）。分析にあたっては、こうした学生種ごとの性別構成の差異にも注意する必要があるだろう。

図4 大学院学生の所属専攻別回答者数



I-5 評価結果の提供と公表

I-5-1 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という三つの大きな目的のもとに企画され、実施された。そのことを勘案した授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) **当該科目を担当した主任講師への提供**……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、全体平均と比較した選択項目の平均値および自由記述部分が含まれる。
- (2) **専攻主任・プログラムコーディネータへの提供**……対象となった科目の所属する全ての専攻・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) **教授会および教育課程編成委員会等関連委員会への提供**……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意志決定に際しての資料とするため、教授会、各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、9頁～14頁にサンプルを示した通りである。

I-5-2 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果を授業改善の目的で用いるのはもちろんであるが、それに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表が強く求められているところである。小委員会では、その問題に関しても詳細に検討した。その結果、以下のような合意に達し、それを基本的な方針とすることが決められた。

(1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民へのアカウンタビリティ等を勘案するならば、いうまでもなくそれが理の当然であるといえる。そこで、当面は以下に示すような形態の公表を行っていくものとする。

(2) 公表する内容

以下のデータに関して公表するものとする。

- ①調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施期間、調査票、サンプリングされた学生数等
- ②回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者
- ③評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問ごとの評点平均値
- ④自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述（ネガティブな評価の場合はできるだけ科目名が特定されないように処置）

(3) 公表の方法

(2)の内容について、電子化したうえでウェブ上にアップロードし、「On Air」紙上等でも適宜公表することを基本とする。

学部

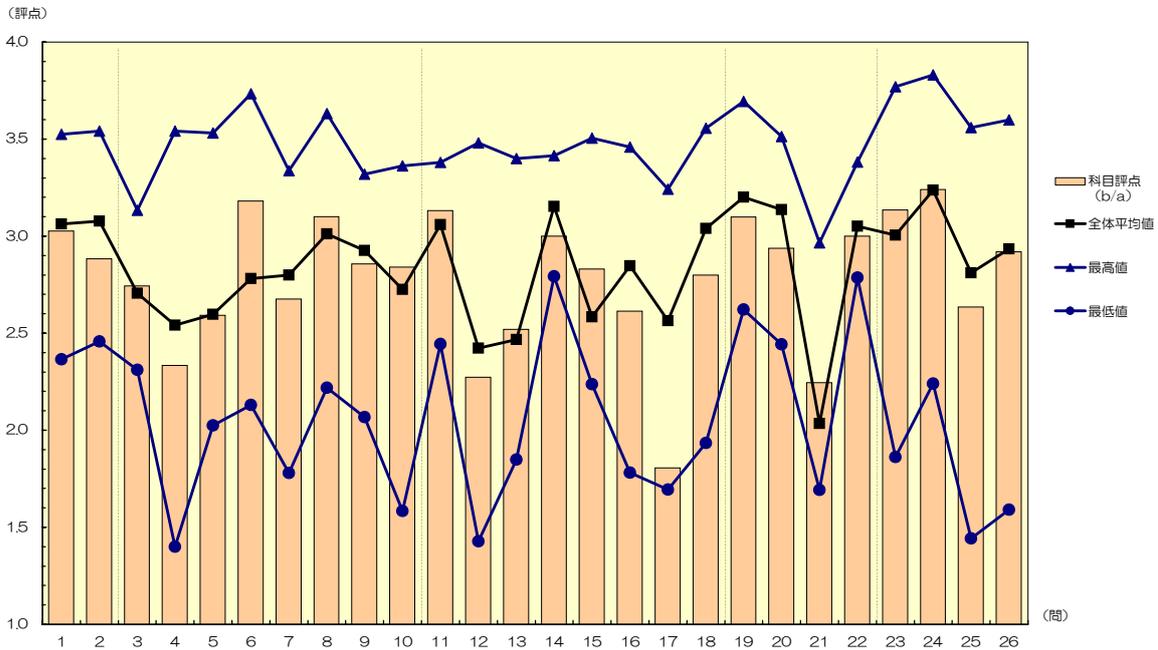
科目名（メディア）： ○○○○（R）

教員氏名：○○ ○○

1. 各設問における評点

	設問内容	有効回答 (a)	評点合計 (b)	科目評点 (b/a)	各種平均評点			レンジ	
					全体平均値	TV又はRのみ	同一専攻のみ	最高値	最低値
問1	全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	76	230	3.03	3.06	3.01	3.01	3.53	2.37
問2	授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	77	222	2.88	3.08	3.03	3.03	3.54	2.46
問3	放送授業を十分に視聴した。	74	203	2.74	2.71	2.64	2.69	3.13	2.31
問4	自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた。	72	168	2.33	2.54	2.45	2.40	3.54	1.40
問5	放送授業の内容は分量が多すぎると感じた。	71	184	2.59	2.60	2.51	2.58	3.53	2.03
問6	放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった。	72	229	3.18	2.78	2.71	2.81	3.73	2.13
問7	講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	68	182	2.68	2.80	2.73	2.70	3.34	1.78
問8	講師の熱意が十分に伝わった。	70	217	3.10	3.01	2.98	2.93	3.63	2.22
問9	放送授業は教材としてよくできていると感じた。	70	200	2.86	2.93	2.86	2.85	3.32	2.07
問10	(この科目がテレビ科目の場合) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。 (この科目がラジオ科目の場合) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。	69	196	2.84	2.72	2.63	2.65	3.36	1.58
問11	印刷教材を熱心に学習した。	76	238	3.13	3.06	3.01	3.03	3.38	2.44
問12	自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた。	77	175	2.27	2.42	2.34	2.28	3.48	1.43
問13	印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた。	75	189	2.52	2.47	2.39	2.46	3.40	1.85
問14	印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	71	213	3.00	3.15	3.14	3.07	3.42	2.79
問15	印刷教材と放送教材には重複が多いと感じた。	71	201	2.83	2.58	2.57	2.63	3.51	2.24
問16	印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	75	196	2.61	2.85	2.77	2.71	3.46	1.78
問17	図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	72	130	1.81	2.56	2.41	2.43	3.24	1.69
問18	印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	75	210	2.80	3.04	2.99	2.95	3.56	1.93
問19	通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	61	189	3.10	3.20	3.19	3.19	3.69	2.62
問20	通信指導は学習内容の理解に役立った。	64	188	2.94	3.14	3.09	3.11	3.51	2.44
問21	単位認定試験には、ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。	53	119	2.25	2.04	1.98	2.06	2.97	1.69
問22	単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった。	52	156	3.00	3.05	3.00	2.98	3.38	2.79
問23	学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	74	232	3.14	3.01	2.94	2.94	3.77	1.86
問24	新しい知識が身につく視野が広がった。	75	243	3.24	3.24	3.18	3.20	3.83	2.24
問25	この科目の内容は全体としてよく理解できた。	74	195	2.64	2.81	2.71	2.67	3.56	1.44
問26	この科目の内容には全体として満足している。	74	216	2.92	2.93	2.85	2.83	3.60	1.59

(注) 評点については、調査票の選択肢「あてはまる・4点」「ややあてはまる・3点」「あまりあてはまらない・2点」「あてはまらない・1点」としている。但し、設問4・5・6・12・13・15・21については、評価基準が逆であるため、数値を逆転して集計している。



2. 回答者の属性

(単位：人)

学生種別	全科履修生							小計	選科履修生	科目履修生	無記入	計	
	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と経済	人間の探究	自然の理解	無記入						
	—	2	42	1	19	0	64	6	5	4	79		
性別	男	女	無記入				計						
	46	28	5				79						
年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無記入	計				
	0	15	12	10	10	17	10	5	79				
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無記入	計
	7	3	9	4	0	0	6	12	3	25	7	3	79
通信指導の提出及び単位認定試験受検の有無	単位認定試験		通信指導未提出		無記入		計						
	受験	未受験					79						
	49	8	14		8		79						

		問1						問2							
		評点平均	選択肢別の回答割合					評点平均	選択肢別の回答割合						
			4	3	2	1	無回答		4	3	2	1	無回答		
学生種別	全科履修生	生活と福祉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		発達と教育	2.50	0%	50%	50%	0%	0%	1.50	0%	0%	50%	50%	0%	0%
		社会と経済	2.78	26%	36%	19%	14%	5%	2.80	21%	38%	36%	2%	2%	2%
		産業と技術	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	0%
		人間の探究	3.16	37%	47%	11%	5%	0%	2.79	26%	42%	16%	16%	0%	0%
		小計	2.90	30%	39%	17%	11%	3%	2.78	23%	38%	30%	8%	2%	2%
	選科履修生	選科履修生	3.17	33%	50%	17%	0%	0%	3.17	50%	33%	0%	17%	0%	0%
		科目履修生	3.80	80%	20%	0%	0%	0%	3.80	80%	20%	0%	0%	0%	0%
		無記入	4.00	75%	0%	0%	0%	25%	3.00	0%	75%	0%	0%	25%	
		計	3.03	35%	37%	15%	9%	4%	2.88	28%	38%	24%	8%	3%	
性別	男性	3.02	28%	52%	9%	9%	2%	2.91	33%	33%	24%	9%	2%		
	女性	2.93	43%	14%	29%	11%	4%	2.86	25%	43%	25%	7%	0%		
	無記入	3.75	60%	20%	0%	0%	20%	2.75	0%	60%	20%	0%	20%		
	計	3.03	35%	37%	15%	9%	4%	2.88	28%	38%	24%	8%	3%		
年齢	19歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	20~29歳	2.87	33%	33%	20%	13%	0%	2.87	27%	40%	27%	7%	0%		
	30~39歳	2.58	17%	42%	25%	17%	0%	2.58	17%	50%	8%	25%	0%		
	40~49歳	3.30	40%	50%	10%	0%	0%	2.80	30%	30%	30%	10%	0%		
	50~59歳	3.10	50%	10%	40%	0%	0%	3.00	40%	20%	40%	0%	0%		
	60~69歳	3.25	29%	59%	6%	0%	6%	3.18	35%	47%	18%	0%	0%		
	70歳以上	2.88	30%	30%	0%	20%	20%	2.63	20%	20%	30%	10%	20%		
	無記入	3.40	80%	0%	0%	20%	0%	3.00	20%	60%	20%	0%	0%		
職業	公務員等	2.86	43%	14%	29%	14%	0%	2.86	29%	29%	43%	0%	0%		
	教員	3.33	33%	67%	0%	0%	0%	3.33	33%	67%	0%	0%	0%		
	会社員	3.38	44%	33%	11%	0%	11%	2.78	33%	33%	11%	22%	0%		
	個人営業・自営業	3.00	25%	50%	25%	0%	0%	3.25	50%	25%	25%	0%	0%		
	農業等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	看護師等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	家事専業	3.67	83%	0%	17%	0%	0%	3.33	67%	0%	33%	0%	0%		
	パート・アルバイト	2.58	33%	17%	25%	25%	0%	2.83	25%	42%	25%	8%	0%		
	他大学等の学生	3.67	67%	33%	0%	0%	0%	3.33	33%	67%	0%	0%	0%		
	無職	2.96	20%	60%	8%	8%	4%	2.79	24%	36%	28%	8%	4%		
	その他	2.33	0%	43%	29%	14%	14%	2.33	0%	43%	29%	14%	14%		
	無記入	4.00	100%	0%	0%	0%	0%	3.00	0%	100%	0%	0%	0%		
	計	3.03	35%	37%	15%	9%	4%	2.88	28%	38%	24%	8%	3%		
	通信指導・単位認定試験の	受験	3.24	43%	41%	14%	2%	0%	2.96	33%	37%	24%	6%	0%	
未受験		3.00	25%	38%	25%	0%	13%	3.00	38%	13%	38%	0%	13%		
通信指導未提出		1.92	7%	21%	21%	43%	7%	2.43	7%	50%	21%	21%	0%		
無記入		3.57	50%	38%	0%	0%	13%	3.14	25%	50%	13%	0%	13%		
計		3.03	35%	37%	15%	9%	4%	2.88	28%	38%	24%	8%	3%		

(注) 1. 評点については、調査票の選択肢「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」としている。但し、設問4・5・6・12・13・15・21については、評価基準が逆であるため、数値を逆転して集計している。
 2. 各問の「選択肢別の回答割合」については、少数点第一位を四捨五入しているため、必ずしも100%になるとは限らない。

- ・この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

大変興味深い授業だった。また、前回聞き逃してもテーマが分かれているので受講しやすかった。

- ・この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

受講してみてもっと学習段階が進んでから受講すればよかったと後悔した。授業科目案内、その他で望ましい前知識・学習レベルを知りたかった。

- ・この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見・ご感想があれば、どんなことでも結構ですので自由にお書きください。

講師の先生と対面しないかわりに、何度でも視聴できる利点があるので、刺激をえる意味でもできるだけ多く学習センターを活用している。学習の場所があるだけでも助かっている。

III この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。				
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。	①	②	③	
3. 通信指導を提出しなかった。				

IV あなたご自身についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

・学生種別	全科履修生 (1. 生活と福祉 2. 発達と教育 3. 社会と経済 4. 産業と技術	①	②	③	④
	5. 人間の探究 6. 自然の理解) 7. 選科履修生 8. 科目履修生	⑤	⑥	⑦	⑧
・性別	1. 男性 2. 女性	①	②		
・年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳	①	②	③	④
	5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上	⑤	⑥	⑦	
・職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業	①	②	③	④
	5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト	⑤	⑥	⑦	⑧
	9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()	⑨	⑩	⑪	

どうもありがとうございました。

大学院

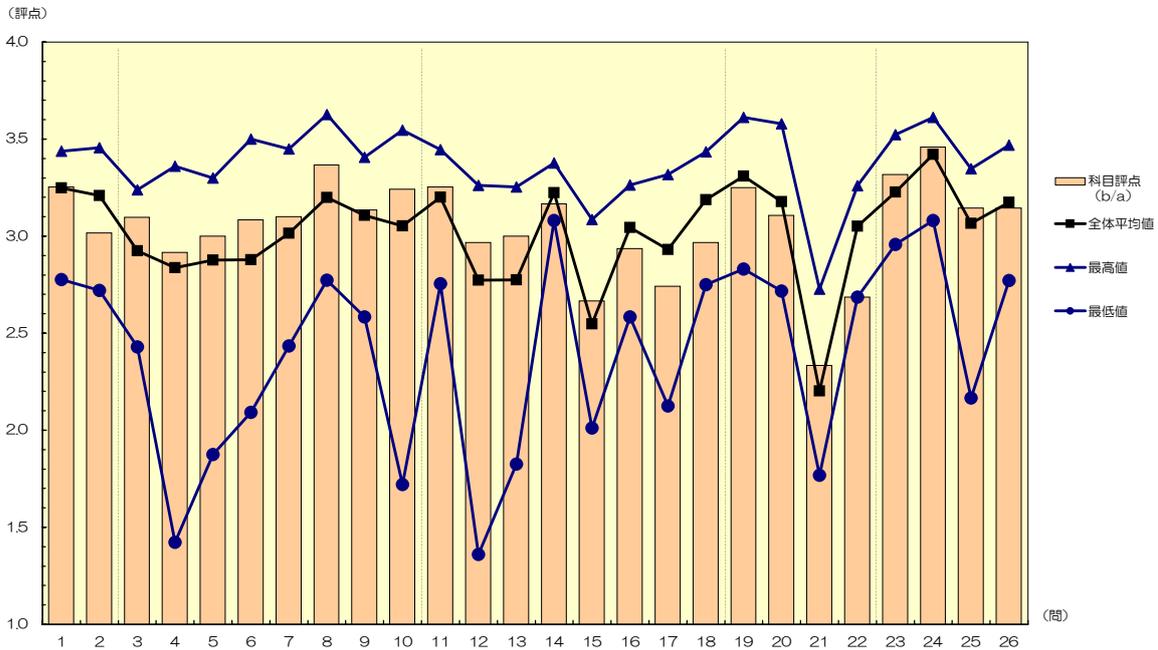
科目名（メディア）： ○○○○（TV）

教員氏名： ○○ ○○

1. 各設問における評点

設問内容	有効回答 (a)	評点合計 (b)	科目評点 (b/a)	各種平均評点			レンジ	
				全体平均値	TV又はRのみ	同-プログラム又はRのみ	最高値	最低値
問1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ。	63	205	3.25	3.25	3.27	3.23	3.44	2.78
問2 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	61	184	3.02	3.21	3.20	3.20	3.46	2.72
問3 放送授業を十分に視聴した。	62	192	3.10	2.92	3.03	2.93	3.24	2.43
問4 自分にとって放送授業の内容は難しすぎると感じた。	60	175	2.92	2.84	2.81	2.92	3.36	1.42
問5 放送授業の内容は分量が多すぎると感じた。	60	180	3.00	2.88	2.86	2.95	3.30	1.88
問6 放送授業は印刷教材や台本を読んでいるだけという印象で物足りなかった。	60	185	3.08	2.88	3.14	2.93	3.50	2.09
問7 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	60	186	3.10	3.01	3.11	3.08	3.45	2.43
問8 講師の熱意が十分に伝わった。	60	202	3.37	3.20	3.32	3.31	3.63	2.77
問9 放送授業は教材としてよくできていると感じた。	59	185	3.14	3.11	3.21	3.16	3.41	2.58
問10 (この科目がテレビ科目の場合) テレビの特性が十分に生かされていると感じた。 (この科目がラジオ科目の場合) 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。	58	188	3.24	3.05	3.25	3.10	3.55	1.72
問11 印刷教材を熱心に学習した。	63	205	3.25	3.20	3.19	3.21	3.45	2.76
問12 自分にとって印刷教材の内容は難しすぎると感じた。	62	184	2.97	2.77	2.74	2.86	3.26	1.36
問13 印刷教材の内容は分量が多すぎると感じた。	61	183	3.00	2.77	2.77	2.88	3.25	1.83
問14 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった。	60	190	3.17	3.22	3.23	3.26	3.38	3.08
問15 印刷教材と放送教材には重複が多いと感じた。	60	160	2.67	2.55	2.72	2.64	3.09	2.01
問16 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった。	62	182	2.94	3.04	3.05	3.10	3.26	2.58
問17 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	62	170	2.74	2.93	3.06	2.84	3.32	2.13
問18 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	61	181	2.97	3.19	3.19	3.21	3.43	2.75
問19 通信指導のコメントは、納得のいくものだった。	56	182	3.25	3.31	3.38	3.40	3.61	2.83
問20 通信指導は学習内容の理解に役立った。	56	174	3.11	3.18	3.23	3.13	3.58	2.72
問21 単位認定試験には、ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ。	54	126	2.33	2.20	2.33	2.32	2.73	1.77
問22 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった。	54	145	2.69	3.05	3.01	3.11	3.26	2.69
問23 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	60	199	3.32	3.23	3.28	3.24	3.52	2.96
問24 新しい知識が身につく視野が広がった。	61	211	3.46	3.42	3.46	3.48	3.61	3.08
問25 この科目の内容は全体としてよく理解できた。	62	195	3.15	3.07	3.08	3.15	3.35	2.17
問26 この科目の内容には全体として満足している。	62	195	3.15	3.17	3.20	3.22	3.47	2.77

(注) 評点については、調査票の選択肢「あてはまる・4点」/「ややあてはまる・3点」/「あまりあてはまらない・2点」/「あてはまらない・1点」としている。但し、設問4・5・6・12・13・15・21については、評価基準が逆であるため、数値を逆転して集計している。



2. 回答者の属性

(単位：人)

学生種別	修士全 科 生						修士選科生	修士科目生	無記入	計			
	文化情報科学群	健康システム科学群	政策経営	教育開発	臨床心理	小計							
	14	7	3	0	0	24	31	7	1	63			
性別	男	女	無記入	計									
	36	21	6	63									
年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上	無記入	計				
	0	4	16	14	12	4	11	2	63				
職業	公務員等	教員	会社員	個人営業・自営業	農業等	看護師等	家事専業	パート・アルバイト	他大学等の学生	無職	その他	無記入	計
	8	8	18	6	0	2	5	5	1	8	1	1	63
通信指導の提出及び単位認定試験受検の有無	単位認定試験		通信指導未提出		無記入		計						
	受検	未受検											
	54	2	7		0		63						

		問1						問2					
		評点平均	選択肢別の回答割合					評点平均	選択肢別の回答割合				
			4	3	2	1	無回答		4	3	2	1	無回答
学生種別	文化情報科学群	3.46 26	62% 16	27% 7	8% 2	4% 1	0% 0	3.12 26	38% 10	38% 10	19% 5	4% 1	0% 0
	環境システム科学群	3.00 4	25% 1	50% 2	25% 1	0% 0	0% 0	3.25 4	25% 1	75% 3	0% 0	0% 0	0% 0
	政策経営	2.00 1	0% 0	0% 0	100% 1	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	教育開発	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	臨床心理	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	小計	3.38 32	56% 18	28% 9	13% 4	3% 1	0% 0	3.19 32	41% 13	41% 13	16% 5	3% 1	0% 0
	修士選科生	3.30 44	55% 24	25% 11	16% 7	5% 2	0% 0	3.09 44	32% 14	48% 21	18% 8	2% 1	0% 0
	修士科目生	2.87 16	38% 6	25% 4	13% 2	19% 3	6% 1	3.40 16	44% 7	44% 7	6% 1	0% 0	6% 1
	無記入	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	計	3.25 92	52% 48	26% 24	14% 13	7% 6	1% 1	3.18 92	37% 34	45% 41	15% 14	2% 2	1% 1
性別	男性	3.36 57	58% 33	23% 13	12% 7	5% 3	2% 1	3.23 57	40% 23	42% 24	14% 8	2% 1	2% 1
	女性	3.12 26	46% 12	31% 8	12% 3	12% 3	0% 0	3.00 26	31% 8	42% 11	23% 6	4% 1	0% 0
	無記入	3.00 9	33% 3	33% 3	33% 3	0% 0	0% 0	3.33 9	33% 3	67% 6	0% 0	0% 0	0% 0
	計	3.25 92	52% 48	26% 24	14% 13	7% 6	1% 1	3.18 92	37% 34	45% 41	15% 14	2% 2	1% 1
年齢	19歳以下	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	20~29歳	3.67 6	67% 4	33% 2	0% 0	0% 0	0% 0	3.17 6	50% 3	17% 1	33% 2	0% 0	0% 0
	30~39歳	3.25 8	50% 4	25% 2	25% 2	0% 0	0% 0	2.88 8	13% 1	63% 5	25% 2	0% 0	0% 0
	40~49歳	3.00 14	43% 6	21% 3	29% 4	7% 1	0% 0	3.00 14	29% 4	50% 7	14% 2	7% 1	0% 0
	50~59歳	2.84 19	42% 8	21% 4	16% 3	21% 4	0% 0	3.26 19	42% 8	42% 8	16% 3	0% 0	0% 0
	60~69歳	3.61 23	70% 16	22% 5	9% 2	0% 0	0% 0	3.17 23	35% 8	48% 11	17% 4	0% 0	0% 0
	70歳以上	3.29 22	45% 10	36% 8	9% 2	5% 1	5% 1	3.33 22	45% 10	41% 9	5% 1	5% 1	5% 1
	無記入	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
計	3.25 92	52% 48	26% 24	14% 13	7% 6	1% 1	3.18 92	37% 34	45% 41	15% 14	2% 2	1% 1	
職業	公務員等	4.00 3	100% 3	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	3.33 3	33% 1	67% 2	0% 0	0% 0	0% 0
	教員	3.22 18	50% 9	28% 5	17% 3	6% 1	0% 0	3.17 18	39% 7	39% 7	22% 4	0% 0	0% 0
	会社員	3.00 8	50% 4	13% 1	25% 2	13% 1	0% 0	3.25 8	50% 4	25% 2	25% 2	0% 0	0% 0
	個人営業・自営業	3.40 10	60% 6	30% 3	0% 0	10% 1	0% 0	3.00 10	10% 1	80% 8	10% 1	0% 0	0% 0
	農業等	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	看護師等	2.50 2	50% 1	0% 0	0% 0	50% 1	0% 0	2.50 2	0% 0	50% 1	50% 1	0% 0	0% 0
	家事専業	3.50 6	50% 3	50% 3	0% 0	0% 0	0% 0	3.50 6	67% 4	17% 1	17% 1	0% 0	0% 0
	パート・アルバイト	2.50 8	25% 2	13% 1	50% 4	13% 1	0% 0	2.75 8	25% 2	38% 3	25% 2	13% 1	0% 0
	他大学等の学生	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	無職	3.43 22	50% 11	36% 8	9% 2	0% 0	5% 1	3.24 22	36% 8	50% 11	5% 1	5% 1	5% 1
	その他	3.33 12	58% 7	25% 3	8% 1	8% 1	0% 0	3.17 12	33% 4	50% 6	17% 2	0% 0	0% 0
	無記入	2.00 1	0% 0	0% 0	100% 1	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	計	3.25 92	52% 48	26% 24	14% 13	7% 6	1% 1	3.18 92	37% 34	45% 41	15% 14	2% 2	1% 1
通信指導・単位認定試験の	受験	3.43 75	56% 42	31% 23	13% 10	0% 0	0% 0	3.16 75	37% 28	44% 33	16% 12	3% 2	0% 0
	未受験	2.44 9	33% 3	11% 1	22% 2	33% 3	0% 0	3.11 9	33% 3	44% 4	22% 2	0% 0	0% 0
	通信指導未提出	2.17 7	29% 2	0% 0	14% 1	43% 3	14% 1	3.33 7	29% 2	57% 4	0% 0	0% 0	14% 1
	無記入	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0	4.00 1	100% 1	0% 0	0% 0	0% 0	0% 0
	計	3.25 92	52% 48	26% 24	14% 13	7% 6	1% 1	3.18 92	37% 34	45% 41	15% 14	2% 2	1% 1

(注) 1. 評点については、調査票の選択肢「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」としている。但し、設問4・5・6・12・13・15・21については、評価基準が逆であるため、数値を逆転して集計している。
2. 各問の「選択肢別の回答割合」については、少数第一位を四捨五入しているため、必ずしも100%になるとは限らない。

- ・この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

とても興味がある分野だったので、いろいろな知識を得ることができて良かったと思う。

- ・この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

図表や映像などを多用すればもっとわかりやすいと思った。

- ・この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見・ご感想があれば、どんなことでも結構ですので自由にお書きください。

他大学院と比べて安価で学習でき、教授陣も充実しているのでよい大学院と思われる。カルチャーセンターと違い、内容も体系的に整理されている。

III この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。				
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。	①	②	③	
3. 通信指導を提出しなかった。				

IV あなたご自身についてお答えください。(右側の欄の数字にマークしてください。)

・学生種別	修士全科生 (1. 文化情報科学群 2. 環境システム科学群 3. 政策経営 4. 教育開発	①	②	③	④
	5. 臨床心理) 7. 修士選科生 8. 修士科目生	⑤		⑦	⑧
・性別	1. 男性 2. 女性	①	②		
・年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳	①	②	③	④
	5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上	⑤	⑥	⑦	
・職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業	①	②	③	④
	5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト	⑤	⑥	⑦	⑧
	9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ()	⑨	⑩	⑪	

どうもありがとうございました。